



Executive Interview

エグゼクティブ
インタビュー

no.52

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

株式会社 三和電設 蟹ヶ谷事業所
代表取締役

佐藤 信吉 様

東京、神奈川県内を走る鉄道会社の電気工事を行っている株式会社 三和電設。集団就職で故郷を出た後、様々な出会いを経て会社を成した佐藤信吉氏。公共交通機関の安全運行を支える、専門性の高い仕事を担う心構えや信条を伺いました。

■ 複雑化する過程を体験できたことが財産。

——会社設立までの道のりを教えてください。

集団就職の最後の世代として、15歳で生まれ故郷の福島から電気工事会社の役員をしていた叔父を頼って横浜の鶴見に。その会社で働きながら定時制工業高校に4年間通いました。叔父が亡くなり、「何か違うことがしたい」と思い、卒業と同時に独立し、3人ほどの仲間と電気工事の仕事を始めました。

——鉄道関連の仕事に関わり始めたのはいつ頃ですか？

独立して1年後くらいでしょうか、鉄道関連の仕事をやっている方から「手伝って

くれ」と声をかけられました。確か20歳の頃でした。下請け会社から仕事を請け負う立場で、内容は鉄道信号システムの工事。当時も今も、非常に難しい仕事で、やればやるほど困難にぶつかり、何度も辞めたいと思いました。その中で、当時の鉄道関係者や協力各社などの縁に恵まれ、応援され、一緒に成長させていただいた結果、乗り越えられたようなものです。もちろん従業員たちもよく働いてくれました。

——会社組織にされたのは？

30歳くらいの頃でしょうか。日吉の原田会計事務所のご夫妻にはお世話になりました。当時、仕事を辞めて田舎に帰りたいというような、心の中の弱い部分を奥さんによく愚痴っていました。まだ

若く未熟だったものですから、口に出すことで精神的に楽になりました。

——仕事の内容を教えてください。

鉄道電気関係で、信号保安設備工事と踏切保安設備工事を中心です。

信号保安工事とは、列車制御装置(ATS、ATC)工事のことで、駅構内のポイントや信号連動装置の設置、ケーブル布設・配線などを行っています。





いい出会いが重なり、 共に成長した日々。 この経験を次世代へ渡す準備中。

また、踏切保安設備工事とは、鉄道と道路が平面交差する踏切の警報機・遮断機・踏切障害検知装置の設置、ケーブル布設・配線などです。

少しわかりづらいのですが、ミスすれば電車の運行障害が発生してしまう仕事です。最先端の技術を導入し続ける鉄道会社に関われたことを誇りに思っています。

■積み重ねた経験を次世代に伝えたい。

——2年前に現場を退いたそうですが。

20数年かかった路線の複々線化に目処が付き、ATC化も全てやらせてもらい、自分の「工事屋」としての目標は、ある程度達成したという気持ちからです。60歳という年齢も一区切り、という気がしました。

今、我々と同じ時代を過ごした会社は世代交代の時期を迎えています。法人化でお世話になった会計事務所の担当も息子さんに代わりました。うちも長男が働いていますが、仕事内容を見極め、バランスよく仕事を配分し、時間通りにミスなく上げる親方としての仕事は、なかなか難しい。おまけにこの仕事は、電車が運行していない深夜の限られた時間に行われるので、若い人材が集まりません。技術も経験を要するもので、人材育成も困難です。当社も一番の若手が33歳。頼りになるのは一緒に30年

以上やってきた60歳過ぎの従業員。うちには8人体制の小さな会社です。これからどう先につないでいくかが課題です。

——解決方法として、どういったことを？

協力業者の中には若手中心の会社がありまして、彼らにチームとして入ってもらって、ベテランの仕事を手伝ってもらいながら一緒にやっていく道を模索中です。

この仕事は安全運行のため、常に崖を背にしている心構えで100点を取り続けなければならない。厳しい反面、いい仕事をしていけば次につながります。仕事の出来が営業だと思わなければ。

自分自身は昭和50年代から平成の初めくらいまでの時期に、難しいことに挑戦させてくれる方々に恵まれました。その人の信用を潰さないように、とコツコツやってきた結果が今に繋がっています。面倒を見ていただいたし、相談にもものっていただきました。こういったトータルの経験を次世代に伝えていきたいです。

——一つの会社にこだわらない協力体制が必要なのですね。

鉄道の仕事は、専門性の高い土木、保線、電気関係の各分野が協力して成り立つ分業制です。電気工事も一人では

何もできないわけですから、役割分担とチームワークが大切。報告、連絡、相談のハウレンソウで毎日の仕事が成り立っています。報告を受けて全体が見えてこない、業務管理もできません。何より、現場に入る時間は限られています。短時間に仕事をやり切る時間と量の配分、問題のさばき方などは、全体を見通していないとうまくいきません。ちゃんとやっている人は見てあげたいし、皆に力を発揮してもらえるよう、きちんと段取りをする。それが親方の仕事です。

我々は電気工事のスペシャリストですが、仕事を請け負う立場。時代も変化し、昔のように鉄道マンと協力しながら挑戦する機会はほとんどなくなりました。自分としてはゼロからスタートし、食べていけるようになり、好きなゴルフも楽しめるようになったのだから、それでいいかな。仕事をコツコツ積み重ねていって、電車が安全に走り、従業員と家族を養っていければ、それでいい。そんな風に思っています。

<インタビューを終えて>

趣味のゴルフは、仕事を越えた人間関係が築けるところが魅力だと。医師、不動産関係、パイロットなど、様々な職種の気の合う人たちとコースを回るのを楽しみにしているとのこと。仲間との酒席には、ゴルフをしない奥様も参加し、楽しい時間を分け合っているそうです。ゴルフには人柄、人格が出ると言います。謙遜して「好き嫌いが顔に出る単純な性格」とおっしゃいますが、裏表のない明るい人柄に惹かれて、たくさんの人が集まってくるのでしょうか。

株式会社 三和電設 蟹ヶ谷事業所

〒213-0025 神奈川県川崎市高津区蟹ヶ谷248
TEL: 044-751-5305